【GaLaBau 2026 会場レポート】
気候変動時代の都市づくりを牽引する
欧州最大級のグリーンインフラ見本市



出展品	展示ホール	出展者数	来場者数
造園用土木機械、掘削機、運搬車両、電動工具、ロボット芝刈り機、舗装材、石垣素材、潅水システム、壁面緑化システム、屋外遊具、景観設計システム、造園用業務管理システム	14 ホール	2026 年度は 1,100 社 2024 年度は 1,103 社	2026 年度は 68,000 人 2024 年度は 66,567 人

2026 年 9 月 15 日（火）～18 日（金）の 4 日間にわたり、ドイツ・ニュルンベルクの見本市会場において、世界最大級の造園・ランドスケープの専門見本市「GaLaBau（ガラバウ）2026」が開催されました。1974 年の創設以来、2 年ごとに開催されている同見本市は、造園・遊具広場建設における欧州最大級の B2B プラットフォームとして機能しています。毎回、世界中から 6 万人以上の専門家（自治体の都市計画担当者、景観建築家、造園施工業者、専門商社、バイヤーなど）が集結することもあり、今回もグローバル市場への販路拡大やパートナーシップ構築の極めて重要な拠点として大きな注目を集めました。

2026 年の GaLaBau のテーマは、「未来に向けた気候への備え（Climate-Ready for the Future）」。EU 全体で力を入れている注目のテーマというこもあり、会場には多くの来場者が詰めかけ、これまでにない熱気に包まれていました。特に注目を集めたのは、気候変動や深刻な人手不足といった「業界が今まさに直面している課題」を解決する具体的なアイデアの数々です。

- 気候変動への適応と持続可能性：スポンジシティ、屋上緑化、生物多様性の確保、効率的な灌漑・節水技術
- デジタル化と革新技術： AI の活用やスマートなガーデン技術の導入
- 人材の確保と育成：次世代の専門人材の育成や知識の継承



ホール 1-305：世界最高峰のロープ製ネット遊具専門メーカーBerliner Seilfabrik。



ホール 3A-311：業界トップクラスの造園設計ソフトウェアメーカーDataflor。



ホール 4-309：排水・雨水管理システムの世界的なリーディングカンパニーACO。



4A-522：コンクリートブロック・舗装材の世界的なトップメーカーGODELMANN



ホール 7A：世界で初めてミニショベルを開発した株式会社竹内製作所。



ホール 11：世界シェア No.1 のチェンソーブランド STIHL。

■ **見本市の心臓部：ドイツ造園・緑化・スポーツ施設建設連盟（BGL）エリア**

GaLaBau の創設者であり名誉スポンサーでもある、ドイツ造園・緑化・スポーツ施設建設連盟（BGL）のエリアは、例年通り見本市最大のハイライトとなりました。「緑ある生活空間の未来（Zukunft Lebensraum Grün）」をモットーに掲げた 1,400 ㎡に及ぶ広大なブースは、都市に冷却効果をもたらす「グリーンオアシス」のような癒しの空間を演出。会場では、持

続可能な植物の選定や、気候変動に強い木本植物（樹木）、都市における生物多様性の促進など、日々の業務に直結する貴重なベストプラクティスが提示され、会期を通じて多くの来場者を惹きつけました。



3A111：広大な BGL エリア全景。



3A111：BGL の講演スペースは常に満席。

■ **重要テーマを巡るルート「GREEN-BLUE PATH（グリーン・ブルー・パス）」**

「GREEN-BLUE PATH」は、「グリーン（緑化）」と「ブルー（水管理）」に配慮したソリューションを提供する出展者を効率よく巡る特設ルートです。気候変動への適応、資源保護、持続可能な開発に貢献する製品・サービスを対象に、専門家審査員によって優れた出展企業が選出されます。見事選ばれた企業のブースには、目印となるフラッグが掲げられました。2022 年の導入時はわずか 8 社だった選出企業が、今回は 30 社へと大幅に増加。出展企業の間でも、環境配慮への取り組みや技術革新が急速に広がっていることを証明しています。

■ **特別企画エリア「ZUKUNFTSRAUM（次世代のビジネス空間）」**

今回の GaLaBau では、業界のデジタル変革（DX）に焦点を当てた新しい特別企画エリア「ZUKUNFTSRAUM」が登場し、大きな注目を集めました。このエリアは、来場者が「未来のワーク環境」をリアルに体感して自社への導入イメージを膨らませることができる体験型の「システム展示スペース」と、専門的な知見を深めるナレッジ共有の「講演スペース」の 2 つで構成され、多くの来場者が足を止めていました。



ホール 3A131：GREEN-BLUE PATH 選出企業。



ホール 3C 405：ZUKUNFTSRAUM は連日多くのお客様で賑わいました。

■ **連邦遊び場遊具・レジャー施設製造業者協会（BSFH）のミーティングポイント**

今回も、連邦遊び場遊具・レジャー施設製造業者協会（BSFH）は専門誌『Playground@Landscape』と共同で、遊び場やスポーツ・レジャー施設の計画・建設・運営に携わる専門家に向けて、「BSFH ミーティングポイント」を設置しました。

「遊び」と「運動」は、豊かなレジャー活動であるだけでなく、子どもから若者、そして高齢者に至るまで、あらゆる世代の心身の健康に深く寄与する大切な要素です。レジャー習慣が多様化する近年、都市や自治体には、天然の樹木、芝生、土、水などの自然素材を活用した遊び場や運動スペースの柔軟な整備が求められています。

こうした背景を受け、会場ではこれからの地域づくりを担う関係者のための相談窓口として、遊び場の動線デザインや安全性、サステナビリティに関する対面での対話や情報交換が活発に行われ、大変有意義な情報共有の場となっていました。

■ **専門家フォーラムが示す「緑地ビジネス」の変革期**

GaLaBau の数あるプログラムの中でも、ひときわ高い熱気に包まれていたのが専門家向けのフォーラムです。会場は連日超満員となっており、この高い関心は、現在の造園・ランドスケープ業界が直面している「変革への強いニーズ」をそのまま映し出していました。

専門家たちがこれほどまでに熱視線を送る背景には、2 つの大きな潮流があります。1 点目は、都市計画においてスポンジ・シティ（雨水浸透型都市）の構築や、緑化によるヒートアイランド現象への対策、そして生物多様性の保全が不可欠な要素となっていること。2 点目は、景観設計者や自治体担当者、造園家たちが、学術的知見に基づいた「多機能な緑地づくり」の実践アプローチを強く求めていることです。

そのため、各フォーラムの終了後も、紹介された技術的ソリューションや資材のスペック、気候変動に耐えうる最新の植物リストについて、スピーカーへ熱心に質問を浴びせる姿が見られました。本フォーラムは、これらの潮流に応える最先端のテーマを提供し、成功事例に直接触れて学び合える、業界の貴重なプラットフォームとして機能しています。



ホール 1-415：BSFH ミーティングポイント。



ホール 2-303：専門家フォーラム。

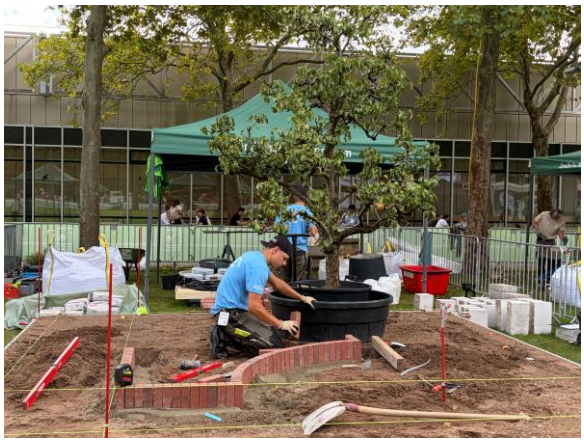
■ **次世代の熱戦「ランドスケープ・ガーデナー・カップ」**

会場を訪れる来場者にとって、見逃せない見どころの一つが Messe Park で開催された「ランドスケープ・ガーデナー・カップ」です。9 月 16 日・17 日の両日、屋外展示会場にて、次世代を担う若き専門家たちが競技形式でその卓越した技術を披露しました。
各地域の協会から選抜された精鋭 11 ペア（計 22 名）が、ドイツ国内チャンピオンの座をかけて激突。選手たちは 4m 四方の限られたスペースで難易度の高い課題に取り組み、観客や専門審査員が見守る中、見事な施工を実演してみせました。

この若手技能競技会は、単に職人技や創造性を競うだけではありません。サステナブルな植栽アプローチや次世代建設資材の活用、最新の機械・工具のポテンシャルを最大限に活かした施工をはじめ、建築緑化、水管理、樹木管理など、現代のランドスケープに求められるあらゆる先端技術が随所に組み込まれた、非常に見応えのある内容となっていました。



会場は暖かい応援と熱気に包まれました。

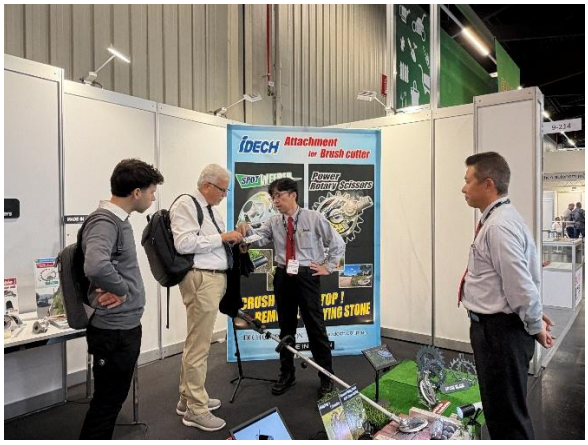

バイエルン州代表の作業風景。

■ 日本からの出展：株式会社アイデック（IDECH）

日本からは、農業・園芸機器の開発メーカー「株式会社アイデック」（兵庫県加西市）が 2 回目の出展を果たしました。会場では、世界展開する独自の草刈りアタッチメント「スーパーカルマー（海外名：Power Rotary Scissors）」や、新製品の「うね草取りまー（海外名：SPOT WEEDER）」を紹介。欧州の大手部品卸売メーカーとの提携を強みに、現地でのさらなる認知度拡大に向け、今後も継続して出展を重ねていきたいとしています。



Halle9-114：好評を博した実演展示。



質問に熱心に対応する技術スタッフ。

業界の未来を占うインスピレーションの源泉として、GaLaBau は非常に大きな役割を果たし、熱気に満ちたまま幕を閉じました。現在、世界中の都市が「カーボンニュートラル」や「ヒートアイランド対策」という共通の課題に直面しています。GaLaBau 2026 は、住みやすく気候変動に強い都市への変革において、造園分野が極めて重要な役割を担っていることを鮮烈に印象付けました。会場に展示された数々のイノベーションは、環境への責任と経済的効率性を両立させ、将来を見据えた事業運営を行うために必要なツールを企業に提供するものとなりました。

ここで得られた知見とネットワークを糧に、業界はさらなる持続可能な未来へと突き進んでいくことが予想されます。次回の GaLaBau は、2028 年 9 月 12 日～15 日まで開催されます。皆様の出展とご来場を心よりお待ちしております。